

シンガポール金融市場の機能と役割：現代国際金融 センターとしての一考察

取越，達哉

<https://hdl.handle.net/2324/4474926>

出版情報：九州大学，2020，博士（経済学），課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	取越 達哉			
論文名	シンガポール金融市場の機能と役割 －現代国際金融センターとしての一考察－			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	岩田 健治
	副査	九州大学	教授	大坪 稔
	副査	九州大学	准教授	前田 真一郎
	副査	下関市立大学	学長	川波 洋一

論文審査の結果の要旨

本論文は、2001年以降のシンガポール金融市場についてとりあげ、金融グローバル化とICT(情報通信技術)化が進んだ現代世界経済において国際金融センターが有する独自の意義について考察を行っている。

本論文の意義として、以下の点を挙げることができる。第1に、シンガポール金融市場では、金融・保険サービス分野に流入してくる諸外国の資金を原資に、資産運用業を中心とする業者が対外証券投資を活発に行っていることを明らかにした点である。第2に、そうした対外証券投資がアジア地域へのバイアスを有していることを独自の指標を用いて明らかにした点である。第3に、運用先に係るそうした地理的バイアスが、対面接触による当該エリアに係る情報入手の容易さによってもたらされていることを、同国所在の資産運用業の行動を分析する中で明らかにした点である。

全体として本論文は、対面接触による近隣諸国・地域の情報入手の容易さを専門的知識・技術(expertise)として集積したシンガポール所在資産運用業が、国外から広く集めた資金を対外証券投資の形態で主としてアジアに投資しているという、同国の国際金融センターとしての現代的特徴を明らかにした。そのことで、従来、銀行を経由する国際金融仲介機能の提供を通じて「調達のシンガポール」と呼ばれてきた同国の役割はいまや変貌し、代わりに対面情報に係る優位性を武器に国際証券投資を行う「資産運用センター」としての機能を拡充することで、同国がグローバル化の下での国際金融センターとしての地位を維持・発展させてきたことが明らかとなった。同センターがアジア域内金融統合に果たす役割や世界の国際金融センターとの機能比較等について一層の解明が期待されるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、今後追求すべき課題に属する。

以上の理由により、本論文調査会は、取越達哉氏より提出された論文「シンガポール金融市場の機能と役割－現代国際金融センターとしての一考察－」を博士(経済学)の学位を授与するに値するものと認める。